

昭和 61 年秋季 (第 112 回) 講演大会討論会 討 論 講 演 募 集

昭和 61 年秋季 (第 112 回) 講演大会で開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論テーマ

I 高炉用コークス製造における石炭の事前処理 座長 水野 豊

最近における鉄鋼業をとりまく経済環境の変化、更には資源事情の変化の中、高炉用コークスの製造においては、生産性の向上、省エネルギー、或いは非微粘結炭の利用とコークス品質の確保等の面より一層その原料炭の事前処理が重要な課題となつてきている。

かかる見地より、近年実施されている、或いは研究されている新しい原料炭の事前処理の実状を展望すると共に、今後の原料炭の事前処理の方向について討論を行う。各方面からの発表と活発な討論を期待する。

II 連鑄—熱間圧延の直結化 座長 川上公成, 川並高雄, 大谷泰夫

連続鑄造で得られた温間・熱間のスラブ、ブルーム、ピレット鑄片をホットチャージあるいは、直接圧延工程で処理する技術は鉄鋼の省エネルギー、省資源に大きく寄与しており、材質面においても新しい展開が期待される。今回は製鋼、加工システム、材質の三部門にわたりこのテーマを共通テーマとしてとり上げたい。各部門への多数の論文投稿を期待します。

温間および熱間鑄片の直接圧延を可能にした要素技術は数多い。この中で:

製鋼部門においては、タンディッシュから鑄型内現象および二次冷却に関する項目を取り上げたい。無欠陥鑄片(鑄片品質)・鑄型内初期凝固・潤滑現象、パウダー、鑄型幅変更、高速鑄造、ミスト冷却など凝固現象に関わりあるテーマについての論文を募集します。さらにエッジヒーター、送り込みなどの連鑄—圧延の直結化技術の紹介も歓迎します。

加工システム部門においては、直接圧延、ホットチャージを可能とする熱間圧延技術として鑄片の温度確保技術、幅圧下技術やスケジュール・フリー圧延技術など、熱延プロセスでの可塑性のある品質造り込み技術、またそれが容易となる新ミル構造への改変法、連続して安定生産が行なわれる一貫工程管理や品質保証システムなどに関わりのあるテーマについての論文を募集いたします。

材料部門においては、厚鋼板、熱延鋼板、冷延鋼板、棒鋼線材について、炭素鋼、低合金鋼、ステンレス鋼、高合金鋼のホットチャージダイレクト圧延の、メタラジーに関する要素技術を取り上げたい。マイクロアロイの効果、顕微鏡組織や機械的性質、造り込み技術、圧延時のワレなど材質・性能に関するテーマと、将来の材料開発のための基礎研究などについての論文を募集します。

2. 申込締切日 昭和 61 年 2 月 3 日 (月)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採 否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 61 年 5 月 2 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含む) にタイプ印書あるいは黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発装 「鉄と鋼」第 72 年第 9 号 (昭和 61 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 72 年第 10 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 61 年 9 月末日

前記 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

9. 問合せ・申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021